

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第11回）
開催日時	平成27年6月25日（木）午後2時30分から午後4時15分
開催場所	保谷庁舎 3階第2会議室
出席者	（委員）有澤会長・宍戸副会長・松村委員・小野寺委員・田中委員・小谷野委員・佐藤委員・可児委員・久保田委員・横田委員 （欠席）杉原委員・森下委員・熊谷委員・立川委員・早田委員・新出委員 （事務局）等々力課長・近藤係長・石部主事
議題	1 中学校給食の検証について 2 その他
会議資料の名称	1 西東京市立中学校完全給食について（意見）案 2 中原小学校が新10中に移転している間の給食提供方法の比較 3 西東京市立中学校における給食について（答申）（平成19年7月） 4 西東京市立中学校給食検討委員会中間報告（平成20年7月） 5 中学校給食の実現に向けて（平成20年7月） 6 新10中給食室経費
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>事務局挨拶 学校運営課長 等々力 優</p> <p>事務局より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議成立の確認 開催時の出席委員8名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認 * 2名遅参で結果10名 ・傍聴の確認 なし ・配布資料の確認 資料1～6の確認 <p>議題1 中学校給食の検証について</p> <p>○会長 中学校給食が議題だが、先に資料1の意見書についての議論をしたい。事務局からの説明を求める。</p> <p>○事務局 1頁から6頁に関しては、前回のグループ討議の意見を反映しての結果であり正副会長に一任を得た内容なので、大きな変更の必要はないと思うが、7頁の第4項のまとめは、あまり多くの意見が出ていない部分なので、そこについては再確認してほしい。</p> <p>○会長 意見を求める。</p> <p>○委員 5頁の配膳方法だが、Bグループでは「2時間喫食」という文言については触れない方がよい、という報告をしたと思うが、これが残っている理由はあるのか。</p> <p>○委員 現実としては、無理な部分もあるということだと聞いているが、それならば触れない方がよいと思う。</p> <p>○副会長 Bグループでは、守る努力はすべきとの意見ではあったが、この言葉は触れずに表現した方がよいという結論を述べた。</p> <p>○会長 ただ今の意見を参考にして、再度正副会長で調製したい。 4のまとめに関してはどうか。</p>	

○委員 今はほぼ順調に提供できているが、中学の学級増が発生した場合には厳しくなると思う。そのことも含めて、まとめの最終行の「課題解決」という言葉にかけてしまってもよいのか。

○事務局 この意見書については、現状を確認した上での課題、と考えており、大事な問題とは思いますが、そこまで踏み込んだ課題解決ということにはしていない。もちろん、予測しなければならない問題とは思いますが、この文面は、現状を把握した上での構成だと考える。

○委員 この意見書は近日中に報告されるであろうが、次年度以降、もしも学級増のような問題が発生した場合には、別途解決に向けて努力はされるのか。

○事務局 そのとおりである。

○会長 新たな問題が発生した場合は、そのままに捨て置けないことだと思うが、この意見書でいう課題とは、現状の方式に対しての認識だと思う。

他になれば、この場としての調製は終了とするが、正副会長において、再度確認をして来月決定稿を示したい。

続いて、ひばり中と中原小の給食についても、同じ中学校給食の問題のため、改めて意見を求めたいと思う。

全9校の親子給食について現状把握した上での意見書は決定したが、これから確認するひばり中の問題については、付帯意見として新たな文面を付け加えたいと思うが、いかがか。

(「異議なし」)

それでは、これから以降の議論については、付帯意見として、付け加えることとする。

この問題は、中原小が中学の校舎を使うということから発生したことだと思う。そこで、最初に中原小が使う際のことを確認したい。資料の説明を求める。

○事務局 資料2だが、現在考え得る、中原小の児童への給食の提供方法についてだ。

①と②は、給食の調理を一切やめて、①は、全員が家庭弁当を持参する。②は、外注の弁当と併用する。いずれも、新10中の敷地内の給食施設は不要だが、調理員や栄養士の処遇を考える必要がある。

また、約2年間弁当が続くことでの他校との公平感が課題となる。①の場合、弁当を用意できなかった児童への配慮等も必要になる。

④は、中原小が850食を配食する大規模校のため、親校を1校に指定することは困難が予想される。また、親校としての設備や運搬のための関係備品の購入に別途予算が必要になる。ただし、親子方式のため、新10中に給食室を作る必要はなく、その分の差し引きは可能だが、2年後にはその施設等が余剰になる。

③は、従来どおりの給食提供は可能だが、中学の敷地内に給食設備を整える必要があり、その施設を残存させて自校式をスタートさせてはどうか、という意見も出ている。これには、給食室を仮設にして、中原小の児童が元の小学校に戻る際、取壊してしまう、という方法もある。

事務局としては、①と②の弁当方式の2年間は長過ぎると思う。④の小学校間の親子給食方式は、逆に余りに期間が限定的に思う。したがって、これまでの環境を維持できる③の方式が、より至当な方式であると考えたい。

○会長 説明に対する質問を受けたい。

○委員 今までと方式が変わったとしても、給食費は同じで良いか。

○事務局 ①の家庭弁当以外は、他校と同じ金額になる。

○委員 外注・家庭弁当選択抑制の場合、牛乳保冷庫のみは必要になると思う。

○事務局 牛乳を提供する場合には必要だ。また、食器をどのようなものを使うかによっては、食器消毒保管庫が必要になることもある。

○委員 親子給食開始直前の1ヶ月余りの弁当方式のときには、牛乳はパックで納品

依頼をした。牛乳を提供するか否かで、保冷庫も決まってくると思う。

- 事務局 資料に記載の弁当代金には牛乳は入っていない。提供する場合には、更に市の負担は増えることになる。
- 副会長 元泉小の給食室を使って配送することは考えられないのか。
- 事務局 大変合理的な案だと思うが、元泉小を中原小の給食室として使うには、管理者が常駐していないこと、或は、既に小学校ではないので、厨房として使うためには給食工場となり、用地の用途変更が必要になるため、その選択は厳しいと思う。
- 会長 小学校間の親子給食だが、1校の親で900食を作ろうと思うから困難になると思うが、2校から450食程度の提供ならば可能にならないのか。
- 事務局 食数を2つに分けることは計算上可能かと思うが、2年間のための施設改修費が2校に増えるというのは現実的ではない。また、中原小はアレルギー対応の児童数が多い学校なので、除去食対応のできない親子給食方式は、選択肢としては順位が低くなる。
- 会長 他に意見はあるか。

(「なし」)

家庭弁当を2年間継続することは最も難しいと思う。他の方法も、経費や他校との釣り合いを考えると、自校式で今までどおりの給食を喫食することが、2年間の過ごし方としてはよろしいのではないかという案が浮上している。

成長期の子どもにとっての2年間は、大変長いものと考えている。この間を安全で安心で、成長に役立つ給食を用意してあげてほしい。そう考えると自校式ということだと思うが、いかがか。

(「異議なし」)

そのように確認し、まとめたい。

次の課題としては、ひばり中の生徒が移転後の中学校給食の件を確認することになる。資料の説明を求める。

- 事務局 2種類の資料を用意した。1点目は、西東京市では、なぜ中学での親子給食を選択したのかという、経過に関するもの。2点目は、自校方式で給食をスタートさせた場合の、経費的な比較表になる。

最初に、資料3、4、5だが、平成19年度と20年度に発した、中学校給食に至った経緯の文書だ。平成19年7月の給食審議会の答申文では、資料3の5頁にも記載があるが、中学でも「小学校と同様の自校方式での実施が理想」と述べつつ、西東京では、調布市の実態を参考にした「親子給食」の実施を提案している。これを受け、庁内の検討委員会が設置され、平成20年7月の中間報告、11月の最終報告ともに「親子給食」を選択の上、完全給食を実施すべき、という結論に至った。

いずれの文書を確認しても、親子給食を選択した理由は、財政的な側面からで、市の財政状況は、当時と大きな変化はないものと考えている。また、前の期と、今期の給食審議会においても、親子給食を検証の上、意見書を取りまとめたが、親子給食に大きな問題点は見当たらず、今後も円滑な運営に向けて努力するよう求めている。

次に資料6は、中原小と新10中が給食を自校式で行う際の建設費やランニングコストなどを現況と比較するための表だ。最初の建設経費は、どのような建設方法でも、敷地内に給食室を作ればそれなりに費用が必要だ。庁内の試算では、仮設であれ、校舎内に用意するのであれば、それほど大きな差は生じないという説明を受けているが、大きな差になりそうなのは、中原小が2年間使う間の給食用の備品類を、現在の中原小から移設して給食提供するのと、真新しい備品類を全て買い揃えるのとでは、おそらく10倍ほどの差が生じるのではないかと踏んでいる。

次に、給食提供のための経費だが、最初の2年間、小学校が使う間の調理員の人件費及び機器点検等に必要経費は、現中原小の備品類を移設した場合には現行どおりだが、新しい備品等を整えようとした場合には、ドライシステムでの施設設計が必要

となり、この場合、現在の職員数では調理が難しくなるため、臨時職員等で対応するための経費が、別途必要になる。

続いて、平成33年度以降にひばり中が入校した際、住吉小との親子給食を維持した場合と親子関係を解消した場合の差し引きを計算した。その差は、約1千百万円で、現状の親子給食方式を維持することが、財政面では有利という結果になった。この程度の差金で自校式を選択できるのならば「安い」という見方もあろうかと思うが、親子給食方式に大きな欠点が見当たらないという、給食運審の検討結果が出ている中で、毎年1千万円超の予算計上には、それ相当の説明が必要だと思う。

むしろこの審議会では、こうした金額の差異に関する意見ばかりでなく、この先の全中学校の建て替え計画が見えない中で、仮称10中でのみ自校式を選択した場合、他校との公平性をどのように考えるか。或いは、現況では全校が同じ条件で安全で安心な給食を喫食している現状を変更することになる点、などを確認しておく必要があるのではないかと考える。

- 会 長 施設の建設に関わる経費のうち、②の校舎内給食室の「転用改修費」とは、説明欄に記載の中学の開校時に、小学校の給食室を中学の特別教室に転用する費用のことか。また、ドライシステムとドライシステムでない給食室の説明をしてほしい。
- 事務局 転用改修は、そのとおりである。ドライシステムとは、調理中に室内に水を流さないようにするもので、給食室内に排水の溝もない建築工法と備品を備えるもので、現在の学校では、極力水を流さないようにするドライ運用で調理している。
- 委 員 ドライシステムによる臨時職員の増員の要素は、作業区分によるためと思う。文科省の基準によれば、作業区分を分けることで事故を防ぐことを目的としている。現況の中原小では、下処理室で作業をしている人も、そのまま他の作業区分に移動して次の作業を行うことができるが、部屋で分けるようなシステムになると、下処理室の人はその作業のみ行い、作業区分の部屋ごとに調理員を配置する必要が出てくると思う。
- 事務局 そのような要素も加わると思うが、委託業者に確認しても、ドライシステムになると、今以上に人が必要とのアドバイスを受けている。
- 副会長 文科省や都は、ドライシステムでの調理を原則としている。それが不可能な場合には、ドライ運用を導入するような厳しい指導がある。西東京市では、ドライシステムは1校のみで、残りはドライ運用である。新設される中原小の給食室は、ドライシステムでの建築になるが、仮称10中のものは、その後には中学校の給食室として使おうと考えているのであれば、当然ドライシステムが求められると思う。敷地内に仮設で作るということであれば、ドライ運用でも可能ということかと思う。
- 委 員 親子給食をスタートさせる際に、給食室の増床を計画しようとしたが、建蔽率の関係で無理であるという説明を受けたことがある。今回の工事の場合、仮設の建設やその後の取り壊しの際にも、都の建築事務所への届出は必要であるのか。
- 事務局 仮設でも建築確認は必要と聞いている。現在の購入予定敷地の面積内に、850食規模の仮設給食室の建設は、可能と確認している。
- 会 長 給食室の設置については、校舎内であれ、仮設であれ、可能ということのようだ。また、どのような形態で建設するにしても、それなりには建設費用が必要になってくることは理解できた。
- 委 員 新10中の次に建て替えの決まっている中学はあるのか。もしも新10中に給食室を作ることになった場合、それ以降の中学にも給食室が作られると考えてよいのか。
- 事務局 この次の建て替え計画は、三中と聞いているが、その次は承知していない。また、これから以降の問題はまだ議論してはいない。ただし、親子給食に問題がないという結論に至っていることは理解してほしい。
- 委 員 親子給食に全く問題がない訳ではない。2時間喫食についても、厳しい現状

の中でその文言を外した意見書にしている。ただし、衛生面からは2時間喫食は大切なことでもあり、可能であれば自校式に切り替えていく方向で考えてほしい。平成19年の答申は、自校式が望ましいが、限られた予算の中で完全給食をスタートされるために親子給食を選択している。8年前の答申の趣旨を生かす意味でも、自校式が良いと考える。

○会 長 建て替えの順番の都度、自校式に変更できないのかという意見と、前回の答申は、親子の選択は完全給食をできるだけ早くスタートさせるためのものであり、望ましい親子給食に切り替えてはどうかという意見が出た。両意見ともに、子どもの給食を考える上では大切な見解だが、予算が伴う問題でもあり、西東京市の財政状況がどの程度良くなったのかという判断はこの審議会にはできないと思う。仮に、全校を自校式に切り替えるほどの余力があるのならば、その方が相応しいと思うが、未知数だろうと思う。

この会議で判断可能なのは、資料6の3種類の選択肢であることは理解できた。この選択肢の中から選択した場合、中学も自校式を選べば、現行では新10中のみが先行することになる。その当たりの見解も述べてほしい。

○委 員 親子給食を提供する立場とすれば、大きな事故が発生させないギリギリの状態だ。厨房の空調もなく、中学へのコンテナの中も密閉で運搬している。温度管理には常に不安を持っている。今のところ、何も事故はなく、細菌検査も合格してきたのは、結果としてのことだ。もし自校式を選択できる学校が1つでもあれば、市のリスクは少しだけ減ると思う。

○会 長 親子には、温度管理に不安が伴うし、事故を起こすリスクを抱える中で配食しているという、現場からの報告だ。

確かに改善点は意見書にもあがっており、親子給食が完全な方式ではないと私も考えるが、新しい中学に給食室を作る予算があるのならば、リスクを抱える各校の改善に使った方が、全校のリスクが減少するという考え方もできるのではないか。新10中の生徒のみが恩恵に浴するのではなく、親校の改善に予算を使って、全ての児童・生徒がより安全な給食を食べられることの方が公平なのではないか。

○委 員 そのことは、建築許可のことがネックになり、部屋の拡張が難しくなると新しい機器を設置する場所がない。クーラー程度の改善は見込めるかもしれないが、料理を保管するための冷蔵庫も床面積の都合で購入できないのが現状だ。結局は、建て替えなどの機会に、新しいシステムを導入していくことが適当と思う。

○会 長 ひばり中に予算を投入したことにより、他の学校への影響はでないのか。他校の改善が遅れることはないか。

○事務局 通常の予算要求では、1つの新たな増要求に対しては、1つの減算を考えないと上手く獲得できないが、今回の建て替えは特別な事情でもあり、単年度で、その分を他校にしわ寄せが出るということにはならないと思う。ただし、長い期間で考えると、全く影響が出ないという保証もできないと思うが、そうならない努力はしたい。この点は、教育だけで考えられない要素にもなる。学校予算が膨らめば、教育部への影響はなくても、その時点で他の部の事業に影響が出ている可能性は考えねばならないと思う。

○会 長 市の財政だが、今後次第に豊かになっていくという見通しはあるのか。

○事務局 財政の見通しについては、答える材料がない。

○会 長 その当たりがわからないと答えを出しづらいが、今回だけでも自校式にしてしまっていていいと思うか、それはまずいのではないかという意見を述べてもらいたい。

○委 員 中学校で親子給食を継続した場合と自校式で開始した差額は1千百万円と聞いたが、その金額を小学校の親校に使えないのか、という質問も出ていたが、それは市としては別問題で、自校式でスタートすれば7千百万円かかり、そうでなければ従来どおりの予算ですむが、その分を親校への改善のための予算に振り向けることはな

いという試算なのか。

- 事務局 資料は比較をするために出した数字であり、自校式を選択すれば今より余分に予算がかかるということで、使わなければ余るのではないか、というほど単純には考えられないと思う。
- 会長 予算の使い方の問題や今後の市財政の動向を議論しているよりは、同じ市内の中学生が、親子方式と自校式が混在することについての意見を確認すべきではないかと思う。予算のことは、メリット・デメリットを考える上では必要とは思いますが、公平性などの見地でも意見を確認していきたい。
- 委員 全校での自校式という方針をもって進めることがベストであると思う。その方針が持てないのであれば、仮に校舎内に給食室を作ったとしても、特別教室への転用が良いと考える。市全体の計画があるのであれば、今回の自校式には賛成したい。
- 委員 中学でも自校式で行われることが理想と思う。他校の建て替え計画は未定ということであるが、新10中の実績が糸口になって、次の建て替え時も同じ結果につながるのではないかと思う。また、アレルギー対応を考えたときには、自校式がベストであり、これが最大の理由だ。予算のことはあるが、出来立ての給食を食べられる生徒が増えるにこしたことはない。

親の感情からすれば、自らの子のことだけを考えれば自校式に、ということだと思うが、他校に通う生徒をもつ親の立場から見れば、羨ましいという感覚だと思う。
- 委員 自校式が良い方法だとは思いますが、そのためには今後全校が導入するという決定ができるのならば他校も納得すると思う。それが未定だとか、予定はないということだと不満につながる。その点を明確にすべきと思う。

小学校の給食室で、網戸がないために窓を締め切りで調理している学校の話聞いたことがある。もしもそのような状態の親校があるのならば、まずはそうした改善の上での自校式なのかとも思う。
- 委員 その学校に通う親の立場ならば、自校式にしてほしい、ということだと思う。仮に全校が自校式にするということになるにしても、かなり長い期間の問題に陥ると思う。今回の件だが、例え1校ではあっても給食室を残してスタートしてほしい。理由は、親子を実施してきて、親校の不安は拭えないものがある。わずかな一歩でも良いので、新10中は自校式に改善することが良いと思う。現時点で、全校での自校式の確約を取ることは難しいことと思うが、まずは1校だけでも進めてほしい。
- 委員 現在のひばり中は住吉小からの運搬であるが、親子給食を止めてしまえば、その運搬費や親校としての人件費が減ると思うが、それでも親子を継続した方が安くなるのか。
- 事務局 そうした差し引きをした上での1千百万円の差額と考えてほしい。
- 委員 できるところから自校式に変更してほしい。その後の建て替え時にも自校式の導入を計画してほしい。

小学生と中学生の嗜好が異なる。毎日のことなので、中学生が喜ぶメニューを考えたいと思っている。建物は、1度予算をかければ次の建て替えまで残ることだと思う。今回給食室を残さなければ、新10中は、次の建て替えまでの50年余は親子給食が継続されると思うので、まずはここだけでもスタートして、50年先には全校が自校式になった、という経過を踏むことが適当だと思う。

今の段階での計画は立たないと思うが、1校スタートすることで、計画策定のきっかけになる可能性にかけたいと思う。
- 委員 自校式でスタートしてほしい。今の親子方式は、施設面から見てもかなり無理をしていると思う。事故を起こす訳にはいかないのに、懸命に努力しているのが現状で、上手く動いているように見えるだろうが、裏での苦労や不安はかなりのものがある。今後給食がなくなることは無いと思うので、校舎を新築する際には自校式可能な施設にしてほしい。今回のような思いつきではなく、建て替えの都度自校式、とい

う未来の計画をしっかりと練った上で進めてほしい。ただ今回のことだけで言えば、自校式先行でよいと思う。

- 委員 不公平は感じると思う。けやき小のときもそうであったが、どうしてこれほど他校との施設が違うのか、という意見は出ている。それでも、今回は自校式が良いと思う。生徒の安全と親校の調理員・栄養士の苦労を考えると自校式にしなければならないと思う。できれば、今後建て替えが決まった学校も自校式にすべき、という意見を残してほしい。

- 委員 自校方式はすばらしいとは思いますが、コストを意識するとそこまで執着する必要はないと考えたい。1千百万円のランニングコストをひばり中の生徒数で割り返すと1人当たり4万円程度であり、これは給食費1年分に匹敵する額だ。これを西東京市民全体で負担することになる訳だが、今年度もいろいろと教育予算が削減されている中で、更にしわ寄せがあると不安だ。今回のケースが認められれば、必ずどこかで削減があると思う。

もし中原小の給食室として使っていた部屋が特別教室に転用可能ならば、各校ともに倉庫にしる、面談室にしる、足りない状況の中で、ありがたいことだと思う。

西東京市は、都内で3番目に昼間人口の少ない市と聞いている。市外に勤める人が多い中では、子どもたちの給食は絶対確保だと思う。自校式に執着するよりも、現状は維持した中で、少しでも良い環境を整えることに予算を投下することを望みたい。

これ以上の予算カットはつらい。

- 会長 今、教育費だけでなく、福祉をはじめあらゆる場面での予算を削減してきている中で、それを新しい中学の給食の維持費に使えば、しわ寄せはいろいろな場面に出る可能性は考慮すべきかと思う。しかし、自校式が理想的であることは誰しもが認めるところである。

- 副会長 親子方式を検討する場面にも立ち会ったし、その上で、やむを得ずその方式を選択もしてきた。現在は実際の親子方式の苦労も理解するため、軽々しくどちらが相応しい、とは言えない。

限られた予算の中で、いろいろなことを運用しなければならない現実があり、学校給食だけではなく、全体を見てしまうとここだけに予算を投入することには配慮が必要だ。自校式は理想でもあり、青嵐中の時も同じような議論がありながら、結局は親子方式を選択せざるを得なかった。1つの学校だけが先行するという案は伏せて、給食室に転用可能な多目的室を設置した経緯がある。全中学生にとって平等な選択をするべきということで、かなり長い議論の上、苦労して結論付けている。

調理現場と栄養士の苦労は計り知れないものがある。不安やらヒヤリハットに近い場面と隣りあわせでありながらも、事故もなくおいしい給食を提供し続けるという涙ぐましい現状であることは、良く承知している。

せめて、全中学の半分程度でも建て替え計画が見えてきた時点で、青嵐中も、新10中も含めて、新築時には給食室に転用可能な多目的室の基礎工事をしておき、一度に公平に自校式給食がスタートできることが良いのかと思う。新築を機会にその学校の充実、という選択肢も考えられるが、1校にだけ予算を使うというよりも、現在の親校の充実も考えてほしい。もちろん、親子を実施していない小学校でも改修が必要な学校もあるのだし、全体に予算配分を行うという選択肢もあると思う。公立学校なので、あまりに学校間の差が生じるのはどうなのかと感じる。

親子方式がベストであると考えられる関係者はいない中での判断ではあるが、1つの学校だけでも理想に近づけたいという選択肢もあると思うが、時期尚早の部分もあると考えたい。

- 会長 自校式が子どもにとって優れていることは、ここにいる誰しもの共通認識であると思う。

ここまでの意見をどれか1つに結論付ける必要はないと思っている。予算の確保に

よって判断が変る内容までは審議会で決定することはできないからだ。それよりは、生徒やその親の感情を考えることはできるので、より良い給食を提供するためにはどうしたら良いのか、という判断は可能だ。

私は、市民として、西東京市の中学生全員の教育について考えたいし、捕らえなければならぬと思っている。市の給食審議会であるのだから、全体の調整も必要だと思う。自校式移行の計画があり、その上での今回の執行であれば、市民は納得すると思うが、計画も見通しもないままに、青嵐中と異なる結論を出せば、不満は募ると思う。もちろん、今回は一時的に中原小が使うことがあるので、正確には青嵐とは異なるケースではあるが、全9校の生徒の教育の視点から見ると、今回だけ先行するのはまずいのではないか。

多くの市民から見れば、いろいろと予算の削減がある中で、1つの学校にだけ予算を使うほど余裕が出てきたのだろうか、という意見も出よう。財源不足のため補助金も見直します、という説明を受けている現実の中で、自校式に移行するのであれば、もう少し計画的に段階を踏んで進めるべきと考えたい。

これという計画がない中で、新10中だけで終わってしまうよりは、他の学校にも予算を配分する努力をすることが、僅かではあっても中学校全体の底上げになると思う。そのための予算は安全のために使うべきだろうと思う。

そうすると、現時点の判断としては、ひばり中が新しい校舎に移転するときにも、住吉小との親子方式を選択することが良いのではないかと思う。

ここまでの各位の意見を取りまとめて、正副会長で案文調製をしたい、7月の会議では、今日欠席している委員の意見も付け加えて、とりまとめたい。

本日の会議はこの程度とする。次回は、7月24日になる。

閉会